



1泊2日モデルコース 直島・豊島

学び **あるものを活かし新しい価値を生み出す×豊かな島「豊島」**

30名=6人×5グループの場合
推奨学年：中学校～高校生

1日目

家プロジェクト等を通して、あるものを活かして新しい価値を生み出す考え方を学ぶ

8:12 高松港発(フェリー)

9:02 直島・宮浦港着
〈島内バス移動〉

直島30年の取組みについて知ろう

10:00 オリエンテーション(取組趣旨や見所などをレクチャー、グループワークで周遊ルート決め)

11:00 フィールドワーク・アート作品鑑賞(家プロジェクト等)[グループ別行動]

12:00 お昼

13:00 フィールドワーク・アート作品鑑賞 続き

話し合いながらアートを見よう

17:00 宮浦港発(フェリー)

18:00 高松港着、バス移動

高松市内ホテル等宿泊



2日目

豊島美術館や棚田、島キッチンの体験から豊島の自然や食の豊かさを学ぶ

9:00 高松港発(チャーター船)

9:40 豊島・家浦港着
〈島内バス移動〉

食を通して島を感じよう

10:00 島内散策・アート鑑賞・昼食@島キッチン[グループ別行動]

15:00 家浦港発(チャーター船)

15:40 高松港着

学んだこと、感じたことを言葉にしてみよう

16:00 感想発表・振り返り
@高松港付近の会議室

17:00 終了・解散

18:00 高松港着、バス移動

高松市内ホテル等宿泊

日帰りモデルコース 男木島

学び **男木小中学校の再開×過疎高齢化**

20名=5人×4グループの場合
推奨学年：小学校高学年～高校生

9:00 オリエンテーション@高松港付近の会議室[男木島・瀬戸内国際芸術祭の基礎学習、注意事項伝達]

10:00 高松港発(フェリー)

10:40 男木島着

〈島内徒歩移動〉

島の暮らしについて聞こう

11:00 島の方のお話し

12:00 昼食

13:00 集落散策、アート作品鑑賞

[グループ別行動]

アート作品を楽しもう

15:00 感想発表・振り返り

16:00 自由散策[グループ別行動]

17:00 男木島発(フェリー)

17:40 高松港着・解散



オンライン事前学習

ご要望によっては【オンライン事前学習】も可能です。オンラインでの事前相談も承ります。

ご利用にあたり

アート作品の特別開館・カスタマイズツアーの利用が必要です。

お問い合わせ **瀬戸内国際芸術祭実行委員会事務局**
(香川県瀬戸内国際芸術祭推進課)

次の内容をメール(宛先: study-tour@setouchi-artfest.jp)で、鑑賞希望日の2週間前までにご連絡ください

- ①学校(団体)名・学年・人数
- ②鑑賞希望日
- ③訪問を希望する島
- ④鑑賞目的
- ⑤担当者氏名・連絡先
- ⑥特記事項

詳しい話を聞きたいという場合でもお気軽にお問い合わせください。

瀬戸内国際芸術祭アート作品の特別開館

瀬戸内国際芸術祭のアート作品を学校教育に活用していただくため、作品の一般公開をしていない期間であっても、校外学習・修学旅行等で屋内作品の鑑賞を希望する学校を対象に、特別開館を実施しています。屋内作品の鑑賞には、特別鑑賞料が必要となります(未就学児以下は無料)。

島々や作品を知り尽くしたNPO法人瀬戸内こえびネットワーク(こえび隊)が、日程やご利用目的に合わせたカスタマイズツアーを提案し、現地をご案内します(有料)。詳しくはこちら ▶ www.koebij.jp



瀬戸内国際芸術祭の島々で学ぶ /

瀬戸内 スタディツアー

校外学習
教育旅行

瀬戸内国際芸術祭は「海の復権」「島の元気」をテーマに掲げています。

アート・建築を目印に、船に乗り、島をめぐる。

五感で感じる島旅は、子どもたちののびのびとした感性を育みます。

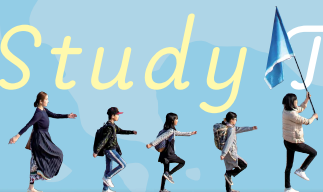
校外学習や教育を目的とした瀬戸内スタディツアーでは、アート作品を楽しみながら里海を歩くことで、その背景にある島の生活や歴史をご案内します。

さらに芸術祭の取組みを通して見えてくる

島の課題やアートによる地域づくりの実践などを学ぶプログラムを企画し、年齢に応じたフィールドワークや教育旅行をご提供させていただくことも可能です。



Setouchi Study Tour



●スタディツアーを通して体験できること

- 1 地域再生に向けた瀬戸内国際芸術祭の取組みについて知る
- 2 島やアート作品に親しみながら、島の課題や魅力を発見する
- 3 案内役のこえび隊や仲間、交流する人々との対話を通して、考えを広げ深める

島の課題を自分たちの身近な課題としてとらえ、SDGsの目標にもつながる私たちの未来について考えるお手伝いをいたします。

島々が抱えている課題を学ぶ

海の復権 [全島]

瀬戸内の島々は古来から海上交通の要路にあり、日本各地と大陸からの新しい文化に触れながら、世界でここしかない生活や風俗が育まれてきました。しかし高度経済成長の過程で取り残され、過疎高齢化が進み、地域の力が低下し、島の固有性が失われつつあります。芸術祭は島々を元気にし世界に瀬戸内全体の魅力を発信しています。



近代化産業遺産「犬島製錬所」 [犬島]

犬島精錬所美術館は、犬島に残る銅製錬所の遺構を保存・再生した美術館です。「在るものを活かし、無いものを創る」というコンセプトのもと作られた美術館は植物の力を利用して高度な水質浄化システムを導入しており、既存の煙突やカラミ煉瓦、太陽や地中熱などの自然エネルギーを利用した環境に負荷を与えない三分一博志の建築に、日本の近代化に警鐘をならした三島由紀夫をモチーフにした柳幸典の作品を展示しています。「遺産、建築、アート、環境」による循環型社会を意識したプロジェクトが、私たちに問いかける現代社会のあり方について考えます。



犬島精錬所美術館 写真：河野大一

伝統行事の維持伝承 [全島]

勇壮に繰り広げられる秋祭り、艶やかな衣装に身を包む農村歌舞伎…。過疎高齢化、人口減少が進むと、地域で代々受け継がれてきた伝統行事や慣習なども受け継ぐ人がいなくなり、存続の危機を迎えます。地域で脈々と受け継がれてきた祭や行事の意味や地域の中で果たしてきた役割について考えます。



犬島くらしの植物園 [犬島]

長く使われていなかったガラスハウスを中心とした約4,500㎡の土地を再生し、犬島の風土や文化に根ざした植物園として展開。見学だけでなく、島の方や来訪者とともに土地を開墾しながら、自然のサイクルに身を置き、食べ物からエネルギーに至るまで、自給自足しながら自然とともにくらす喜びを体験し、「これからのくらし方」を考えます。



犬島くらしの植物園 写真：村上真樹

過疎高齢化 [全島]

日本では都市化が進み、地方の人口が減っています。若者は故郷を離れ高齢化が進み、地域のコミュニティ維持が難しくなっています。瀬戸内島の島々も過疎高齢化は深刻な課題です。芸術祭では空き家を活用したアート作品の展示やボランティアによる地域活動への参加を通じて、関係人口増加による移住者増や定住化などに繋げています。



豊島産業廃棄物不法投棄問題 [豊島]

高度経済成長期に大量生産されたものが不法に投棄された豊島。人間の豊かさ優先の末のゴミが島に持ち込まれ、住民たちは40年以上この問題に取り組んできました。汚染された土壌が元に戻るためには長い年月がかかります。豊島問題を通して「豊かさとは何か」を考えます。



ハンセン病の歴史 [大島]

約100年もの強制隔離の歴史がある大島。ハンセン病の歴史や当時の入所者の生活を、納骨堂、社会交流館などの施設見学や、かつて入所者が住んでいた寮を活用したアート作品を通して学びます。2度と繰り返してはならない病気による人権侵害。今もある身近な差別や偏見についても見つめ直します。



アートによる地域づくりを学ぶ

地域の魅力や資産の発見 [全島]

アーティストは地域の資源を明らかにします。豊島美術館や島キッチン、水や食をキーワードに豊島の豊かさを伝えてくれます。男木島のアーティストたちは、それまで不便だと思われていた狭い急な坂道や古い家屋を、アート作品でプラスの資産に変えました。作品鑑賞を通して、地域の魅力や資産を見つけましょう。



芸術祭流「地域との関わり方」 [全島]

他者の土地にアート作品をつくる地域型芸術祭は、その土地の人々の理解が必要です。3年に1度のお祭りのため、サポーターたちは毎年地域行事に参加します。そこで生まれる信頼と協働が100万人を受け入れる芸術祭を支えています。美術の展覧会という枠を超え、食・イベント・ツアー等、地域に深く長く関わる取組みへ発展しています。



直島メソッド [直島・豊島・犬島]

各島の自然や、地域固有の文化の中に、現代アートや建築を置くことによって、どこにもない特別な場所を生み出すことが「ベネッセアートサイト直島」の基本方針。アート作品との出会い、日本の原風景ともいえる瀬戸内の風景や地域の人々との触れ合いを通して、訪れる方がベネッセグループの企業理念「ベネッセーよく生きる」とは何かについて考えます。



本村風景 写真：鈴木一樹

あるものを活かし新しい価値を生み出す [全島]

過疎高齢化が進む島には、使われなくなった学校や長年放置されてきた空き家、作業場がたくさんあります。地域型芸術祭のアート作品は価値の交換を促します。女木島の休校中の小学校や直島の元歯科医院は、アーティストの大竹伸朗によってアート作品に生まれ変わり、世界中から多くのファンを集めています。



女木/ぬこん 写真：遠藤博

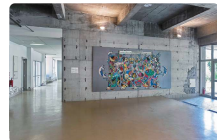
ボランティアサポーター「こえび隊」 [全島]

行政でも島民でもない第3の存在が「こえび隊」。こえび隊は、なぜ生まれ、どんな人が参加し、どんな活動をしているのでしょうか？具体的な取組みを見ていくと、芸術祭のしくみがよくわかり、芸術祭が何倍も楽しめます。芸術祭を通して年齢・性別・国籍を超えた、新しい人の動きや交流が生まれています。



アジアとの交流拠点「福武ハウス」 [小豆島]

一つの集落を通してアジア諸地域がつながるプロジェクトとして2013年に始動した福武ハウス。旧小豆島町福田小学校を再生した「福武ハウス」を拠点としながら、ギャラリー、食堂、アジア・アート・プラットフォームの運営に取り組んでいます。人と土地、人と人をつなぐ美術が古くから持っていた働きを、土地と時間に鍛えられた集落という単位で実践し、アジアの海を媒介に大きくつながり、都市への偏重といった近代化によって失われたものは何かを考えます。



福武ハウス インディケイリ「Sabah Alam / Friend of Nature」2019 写真：木本太

男木小中学校再開 [男木島]

2011年に一度休校となった男木小中学校は、瀬戸内芸術祭きっかけで移住者が増え、2014年春、再び開校しました。島に子どもたちが戻った背景、その後も移住希望者が絶えない理由を知り、人口150人の島の未来を見つめてみましょう。



地方行政との協働 [伊吹島]

日本一のイロコ産地、伊吹島。芸術祭では、漁師の台所を支えた島の祖母さんたちと一緒にお弁当を作りました。約4年にわたる地域との協働作業は、ただお弁当を作るだけでなく、そこから地域の魅力を発見し、一方で高齢化という課題を浮き彫りにしました。芸術祭と地元行政の二人三脚で進む地域振興の取組みを紹介します。



島の魅力を学ぶ

食と芸能「小豆島」

瀬戸内海で2番目に大きな島、小豆島。その立地を生かし、中世以降、塩、醤油、そうめんなどの加工品を生産してきました。また最盛期は島に30あったと言われる農村歌舞伎小屋は、お伊勢参りに行った島民が、上方歌舞伎の絵馬や衣装を持ち込み始めたと言われていて、食と芸能を切り口に小豆島を学びます。



島民の暮らし 写真：木本太

移住者の「視点」 [豊島・男木島・小豆島]

芸術祭をきっかけに移住者が増えた島々。移住者たちは、島のどんなところに魅力を感じたのでしょうか？実際に移住した人たちに話を聞きながら、移住者目線の島の魅力を知っていきます。



島民の暮らし 写真：木本太

英語を学ぶ

Youth Tour Guide, English Lesson [全島]

3年に1度の瀬戸内国際芸術祭には、海外からのアーティストや観光客がたくさん島々にきます。島を巡りながら、アート作品や地域について英語で話してみよう！国や文化を超えた交流の輪が広がります。Let's speak English!



豊かな島「豊島」

豊富な湧水によって棚田では稲が育ち、魚や野菜や果物も多くとれる豊島。近年は産廃問題による風評被害で農産物が売れなくなり、担い手不足で棚田は荒地が増えていました。2010年の美術館開館を契機に休耕田が復活し、稲穂が揺れる景色を取り戻します。レストランでは料理から食の豊かさを学びます。食と農を切り口に豊島を学びます。



島民の暮らし 写真：木本太

公力が支える「男木島」

男木島は急な斜面に石垣を積み、重なるように家が密集している景観が特徴です。口の字型の家の作りや、船の甲板を活用した壁などを集落内で見ることが出来ます。空き家はありますが、移住者が住むためには家の改修が必要です。島には昔から「公力」という言葉があり、今も島民同士が助け合う風習があります。この「公力」によって家の改修等が行われている男木島について、建築を通して学びます。



島民の暮らし 写真：木本太

